

目次

概要

日本科学未来館とは	2
沿革	3
Miraikan ビジョン 2030	4-5
組織	6
日本科学未来館の事業運営について	7
日本科学未来館 名誉館員	8
常設展示監修者	9
施設一覧	10

展示・アクティビティ

常設展「世界をさぐる」(5階) 展示名称	11
常設展「世界をさぐる」(5階)	12
常設展「未来をつくる」(3階) 展示名称	13
常設展「未来をつくる」(3階)	14
常設展「地球とつながる」(1、3、5階)	15
ドームシアター	16
アクティビティ	17
オンラインコンテンツ	18
過去に開催した主な特別展・特別企画	19-20
大型映像の配給	21
科学コミュニケーター	22
ボランティア	23

研究・実証実験

研究エリア	24
実証実験公募プログラム	25
研究開発・社会実装	26

基本情報

利用案内 1～3	27-29
Miraikan アカウント (Miraikan ID) 登録	30
ショップ・展望ラウンジ	31
設計と特徴	32
建築・設備概要	33
アクセス	34

日本科学未来館とは

いま世界に起きていることを科学の視点から理解し、私たちがこれからどんな未来をつくっていくかをともに考え、語り合うサイエンスミュージアム。展示をはじめ、トークセッション、ワークショップなど多彩なメニューを通し、日々の素朴な疑問から最新テクノロジー、地球環境、宇宙の探求、生命の不思議まで、さまざまなスケールで現在進行形の科学技術を体験できます。

名 称	にっぽん かがく みらいかん 日本科学未来館（略称：未来館） Miraikan - The National Museum of Emerging Science and Innovation
館 長	浅川 智恵子
運 営	国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）
開 館	2001 年 7 月
所在地	〒135-0064 東京都江東区青海 2 丁目 3 番 6 号
URL	https://www.miraikan.jst.go.jp/

■ 設立の理念

科学技術を文化として捉え、社会に対する役割と未来の可能性について考え、語り合うための、すべての人々にひらかれた場。

■ シンボルマーク



Miraikan



Miraikan

デザイン：廣村正彰

「Miraikan」という愛称についている青いシンボルマークは、正円と、正円を駆けめぐる円弧とで構成されています。「地球と衛星軌道」、「細胞分裂」、「地球上のさまざまなネットワーク（人と人、情報）」、「電子の動き」などをイメージさせるものです。

沿革

日本科学未来館は、1995 年の「科学技術基本法」、1996 年の「科学技術基本計画」に基づき、科学技術への理解を深めるための拠点として国際研究交流大学村内に建設され、2001 年に開館した国立の科学館です。

1998 年 12 月 「国際研究交流大学村」の建設が決定

文部省、通商産業省、科学技術庁の三省庁(*1)が合同で、臨海副都心地区に「国際研究交流大学村」を建設することが決定。科学技術庁傘下の科学技術振興事業団(*2)が、この大学村内に最先端の科学技術の展示、展示手法の開発、研究者の交流などを通じて科学技術の情報を発信していく施設を整備することになる。

*1 2001 年 1 月、省庁再編成により文部科学省、経済産業省の二省となる。

*2 2015 年 4 月より国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)となる。

2000 年 3 月 総合監修委員会を設置

日本科学未来館のあり方を審議するため、JST に総合監修委員会を設置し、展示計画、活動方針などについて具体的な検討を重ね、館の整備が進められた。(2022 年に「アドバイザー委員会」に改称)

9 月 施設の名称を「日本科学未来館」に決定

10 月 毛利衛が初代館長に就任(現・名誉館長)

2001 年 7 月 9 日 日本科学未来館が開館

2004 年 7 月 名誉館員制度の創設

2006 年 スローガン「科学がわかる、世界がかわる」を策定

2010 年 10 月 日本科学未来館の運営体制の見直し

2009 年 11 月に開催された行政刷新会議「事業仕分け」の結果を受け、予算を縮減しつつ、JST による運営業務直執行体制となる。

2016 年 4 月 常設展の大幅なリニューアル

2017 年 11 月 世界科学館サミット(SCWS) 2017 の開催

2021 年 4 月 浅川智恵子が館長に就任

2022 年 7 月 Miraikan ビジョン 2030 を発表。スローガン「Mirai can __! 未来は、かなえるものへ。」を策定

2023 年 11 月 常設展の大幅なリニューアル

2025 年 4 月 常設展の一部リニューアル

Miraikan ビジョン 2030

■ ステイトメント

あなたとともに「未来」をつくるプラットフォーム

大きな変化のなか、未来が不透明ないま、
ミュージアムにできることは、なんだろうか。

未来館がほんとうにつくり、つたえたいもの。
それは、先端の科学技術の成果でもなければ、その知識でもない。

あなたの声が、行動が、世界を変え、未来をつくる。
月を超えて火星へ。人生は100年へ。人もロボットも街もかしこく。地球はずっと美しく。
そんな夢のような未来は、あなたがいるから実現できる。

未来館は、あらゆる人々が立場をこえて、場所をこえて、
つながり、ワクワクし、わたしたちの未来をつくりだすプラットフォームへ。

次の10年、ミュージアムのその先へ。

さあ、はじめよう。あなたと。未来館と。

■ スローガン

Mirai can _!

未来は、かなえるものへ。

Mirai can _!

未来は、かなえるものへ。

たくさんの人の「かなえたい未来」が集まり、多様な人たちと共にそれを実現していく、そんなプラットフォームになるための私たちのスローガンです。「Mirai can」に続く空白には、一人ひとりが自分の事として、かなえたい未来を想像してほしいという想いを込めています。

■ Miraikan ビジョン 2030 を実現する 5 つの取り組み

多様な人々が集い、最先端の科学技術を活用して、一人ひとりが思い描く未来をかなえる。そんな「未来をつくるプラットフォーム」になるために、次の 5 つに取り組みます。

1. 人の未来を考える

一人ひとりが「自分のこと」として未来を考えられるよう、「Life(ライフ)」「Society(ソサイエティ)」「Earth(アース)」「Frontier(フロンティア)」という 4 つのテーマを切り口に、先端科学技術がもたらす人の未来に焦点をあてた展示やイベントなどの科学コミュニケーション活動を展開していきます。

2. 未来をつくる

展示やイベントだけでなく、未来館全体で行われる未来社会に向けた最先端の研究開発や実証実験などが体験できる、そんな「未来社会の実験場」を目指します。そのために研究者や企業、自治体など、多様なステークホルダーとの連携や共創などを推進していきます。

3. みんなでつくる

継続的に未来館との関係を構築するメンバーシップと、アプリや Web などのデジタルプラットフォームの企画・運用を通して、さまざまな立場の人々がつながり、主体的に未来づくりに参画することができる仕組みづくりに取り組みます。

4. 「未来をつくる人」をつくる

解説や対話などで科学技術への興味関心を醸成するとともに、さまざまなステークホルダーが集い共創する実証実験や課題解決にむけた活動をコーディネートするなど、「未来をつくる人」として科学コミュニケーターの活躍を促進します。

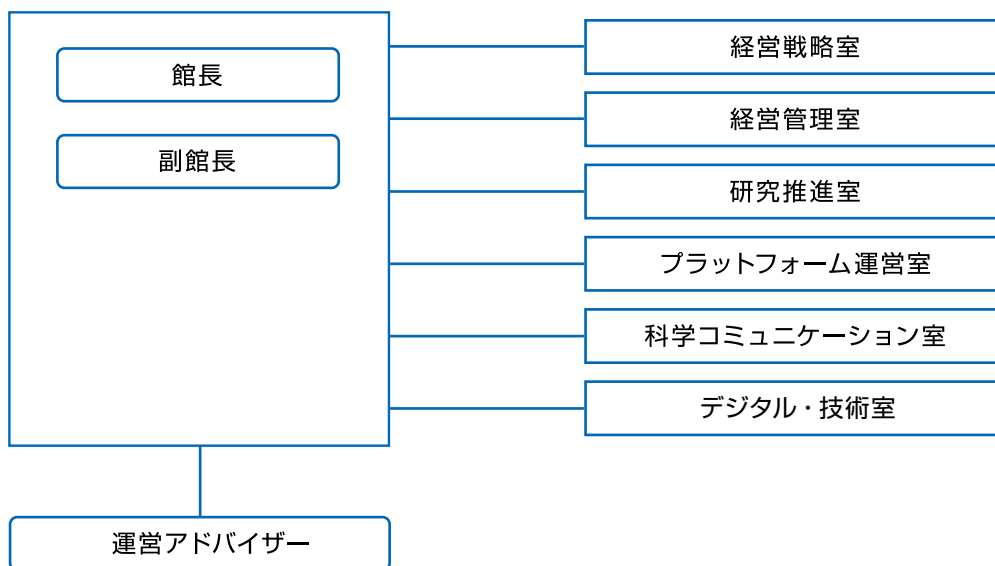
5. サステナビリティとアクセシビリティ

社会的責任として環境負荷の軽減やアクセシビリティの充実に取り組むだけでなく、新しい技術などを実験的に導入するなど、先進的な活動を積極的に推進します。両分野のロールモデルミュージアムとしての実践や発信、普及を通して社会に貢献します。

組織

■ 日本科学未来館 役員

館長 浅川 智恵子
副館長 伊藤 洋一
副館長 高木 啓伸
運営アドバイザー 榊 裕之



2025 年4月現在

日本科学未来館の事業運営について

未来館の的確な事業運営を図るため、以下に示す外部の有識者により構成される「日本科学未来館アドバイザリー委員会」を設置しています。アドバイザリー委員会では、未来館の活動実績や事業運営方針などについて評価・助言が行われます。

アドバイザリー委員会

委員長

村井 純／慶應義塾大学 教授

委員（五十音順、敬称略）

稲見昌彦／東京大学先端科学技術研究センター 教授

江守正多／東京大学未来ビジョン研究センター 教授

片岡真実／森美術館 館長

篠田謙一／国立科学博物館 館長

柴崎敦子／株式会社フジテレビジョン ゼネラルプロデューサー

染川香澄／ハNZ・ON プランニング 代表

早川 茂／トヨタ自動車株式会社 代表取締役副会長

松永道隆／日本放送協会京都放送局 総括副部長

2025 年 3 月現在

日本科学未来館 名誉館員

名誉館員制度は、開館3周年を記念して2004年7月に創設されました。この制度は、科学技術に特に顕著な貢献によりノーベル賞など国際的に認められる賞を受賞され、未来館への理解と協力をいただいた研究者を顕彰し、未来館として敬意の念を表するものです。

■ 名誉館員（順不同、敬称略）

野依良治／2001年 ノーベル化学賞
ティモシー・ハント／2001年 ノーベル生理学・医学賞
田中耕一／2002年 ノーベル化学賞
江崎玲於奈／1973年 ノーベル物理学賞
ルドルフ・マーカス／1992年 ノーベル化学賞
小林誠／2008年 ノーベル物理学賞
鈴木章／2010年 ノーベル化学賞
山中伸弥／2012年 ノーベル生理学・医学賞
バラク・オバマ／2009年 ノーベル平和賞
ブライアン・シュミット／2011年 ノーベル物理学賞
ダン・シェヒトマン／2011年 ノーベル化学賞
白川英樹／2000年 ノーベル化学賞
ジョン・ガードン／2012年 ノーベル生理学・医学賞
梶田隆章／2015年 ノーベル物理学賞
大村智／2015年 ノーベル生理学・医学賞
ムハマド・ユヌス／2006年 ノーベル平和賞
吉野彰／2019年 ノーベル化学賞
本庶佑／2018年 ノーベル生理学・医学賞
天野浩／2014年 ノーベル物理学賞
大隈良典／2016年 ノーベル生理学・医学賞
ウィリアム・ダニエル・フィリップス／1997年 ノーベル物理学賞

2025年4月現在

常設展示監修者

■ 展示監修者一覧（順不同、敬称略）

世界をさぐる

■ 未読の宇宙

梶田 隆章
石原 安野
田中 雅臣
中山 浩幸

■ プラネタリー・クライシス ―これからこの地球でくらすために

武内 和彦
江守 正多

■ こちら、国際宇宙ステーション

毛利 衛

■ 地球環境とわたし

船岡 正光 常松 俊秀
飯田 哲也 藤野 純一
工藤 昭彦 松本 謙一郎
田口 精一 本島 修
田近 英一 安井 至
谷口 正次

■ ぼくとみんなとそしてきみ ―未来をつくりだすちから

松沢 哲郎
廣中 直行

■ 細胞たち研究開発中

浅島 誠
山中 伸弥
京都大学 iPS 細胞研究所 [CiRA]
岡野 栄之
斎藤 通紀
櫻井 英俊
中内 啓光
中川 誠人
山田 重人

■ 100 億人でサバイバル

毛利 衛
押谷 仁
岸本 充生
田近 英一

未来をつくる

■ 量子コンピュータ・ディスク

藤井 啓祐 嶋田 義皓
高橋 優樹 武田 俊太郎
田淵 豊 富田 隆
水野 弘之 株式会社 QunaSys

■ ナナイロクエスト ―ロボットと生きる未来のものがたり

安藤 健 塩瀬 隆之

■ ハロー！ ロボット

茂木 強

■ 古いパーク

荒井 秀典 内田 育恵
稲富 勉 櫻井 孝

■ 計算機と自然、計算機の自然

落合 陽一 後藤 真孝
伊藤 亜紗 杉山 将
加藤 真平 登 大遊

■ 零壹庵

伊東 順二

地球とつながる

■ ジオ・コスモス「未来の地層」

佐倉 統 本吉 洋一

“おや？” っこひろば

塩瀬 隆之
西田 佳史
倉田 新

ドームシアター

■ 『9次元からきた男』

大栗 博司

■ 『バースデイ～宇宙とわたしをつなぐもの～』

谷口 義明

2025 年 4 月現在

施設一覧

■ 展示施設

床面積

シンボルゾーン	1 階	シンボル展示が頭上に浮かぶ、 6 階まで吹き抜けの開放的な空間	600㎡
常設展示ゾーン	3, 5 階	3 階「未来をつくる」、5 階「世界をさぐる」という 2 つのテーマからなる常設展示スペース	3 階 : 2,874㎡ 5 階 : 2,213㎡
ドームシアター	6-7 階	全天周映像とプラネタリウムが楽しめる半球状のシアター	234㎡
企画展示ゾーン a, b	1 階	大型イベントや企画展の開催が可能な空間。 2 分割での使用も可能	1,510㎡ [a:720㎡, b:790㎡]
“おや？”っこひろば	3 階	親子で科学的な「モノの見方」を体験できる無料スペース	600㎡
コミュニケーションロビー	1 階	映像が流れる多目的スペース。 日によってイベントも開催します	300㎡

■ 貸出施設

未来館ホール	7 階	292 人収容可能な、シンポジウムなどの利用に最適なスペース	400㎡
コンファレンスルーム	7 階	スクール形式からシアター形式へフレキシブルに対応可能な会議室や、景観の良い木星ルーム、海王星ルームなどがあります。	木星 : 180㎡ 天王星 : 110㎡ 土星 : 160㎡ 水星 : 55㎡ 火星 : 60㎡ 金星 : 80㎡ 海王星 : 105㎡
イノベーションホール	7 階	引き出し式の収納席と 240 インチのスクリーンがある、103 人まで収容可能なスペース	195㎡
控室 月 フォボス ダイモス イオ エウロパ ガニメデ タイタン トリトン	7 階	ホールやコンファレンスルーム等の利用時の控室にご利用いただけます	月 : 19㎡ フォボス : 21㎡ ダイモス : 22㎡ イオ : 22㎡ エウロパ : 12㎡ ガニメデ : 22㎡ タイタン : 14㎡ トリトン : 14㎡

■ その他施設

多目的ルーム a,b	1 階	分割利用でき、多目的に使用できるスペース	[a:64㎡, b:64㎡]
展望ラウンジ／レストラン	7 階	お台場周辺から東京タワーまで見渡せる休憩スペース。セルフ形式のレストランも併設。	480㎡
ミュージアムショップ	1 階	科学グッズや未来館オリジナルグッズを販売	105㎡

常設展「世界をさぐる」（5階）展示名称

展示	展示チャプター
未読の宇宙	・プロローグ ・メインエリア - マルチメッセンジャー・ビジョン - 多波長観測、重力波観測、ニュートリノ観測、加速器実験 - AI と語る宇宙 ・エピローグ
こちら、国際宇宙ステーション	・ISS で生きるには？（宇宙居住棟）
プラネタリー・クライシス —これからこの地球でくらすために—	・ゾーン1：地球の旅に出る ・ゾーン2：変わる地球の今に触れる ・ゾーン3：くらしと地球を見つめる ・ゾーン4：これからこの地球でくらす
100 億人でサバイバル	・ゾーン1：100 億人の命 ・ゾーン2：あなたの命がおかれている状況 ・ゾーン3：あなたの命を守るには
地球環境とわたし	・地球の今をみる ・本質をとらえる ・未来を描く ・社会の中で語り合う
“ちり” も積もれば世界をかえる —宇宙・地球・生命の探求—	・プロローグ ・地球深部探査船「ちきゅう」 ・小惑星探査機「はやぶさ2」 ・アルマ望遠鏡 ・エピローグ ・LE-7A ロケットエンジン
細胞たち研究開発中	・5つの iPS ストーリー ・くらべる幹細胞 ・あなたと細胞のストーリー ・多様な生物のなかのヒト
ぼくとみんなとそしてきみ —未来をつくりだすちから—	・1 巻 ひとり - 自分をうみだす脳 - ・2 巻 ふたりで - 他者をとりこむ性質 - ・3 巻 みんなと - 社会の中で生きる - ・4 巻 きみとの未来 - 未来をつくりだすちから -

常設展「世界をさぐる」(5階)

私たちはなぜ今、ここに存在しているのでしょうか？ 宇宙や太陽系、地球環境、そしてそのなかで育まれる生命など、私たちをとりまく“世界”のしくみを、さまざまなスケールでさぐるゾーンです。138億年にわたる宇宙の歴史のなかで、人間はどのように生まれ、周囲の世界とどのように関係し合いながら生きているのでしょうか。これらを科学の目で見て感じることで、私たちが未来に進むべき道を大きな視野で考えます。



未読の宇宙



こちら、国際宇宙ステーション



プラネタリー・クライシス
—これからもこの地球でくらすために



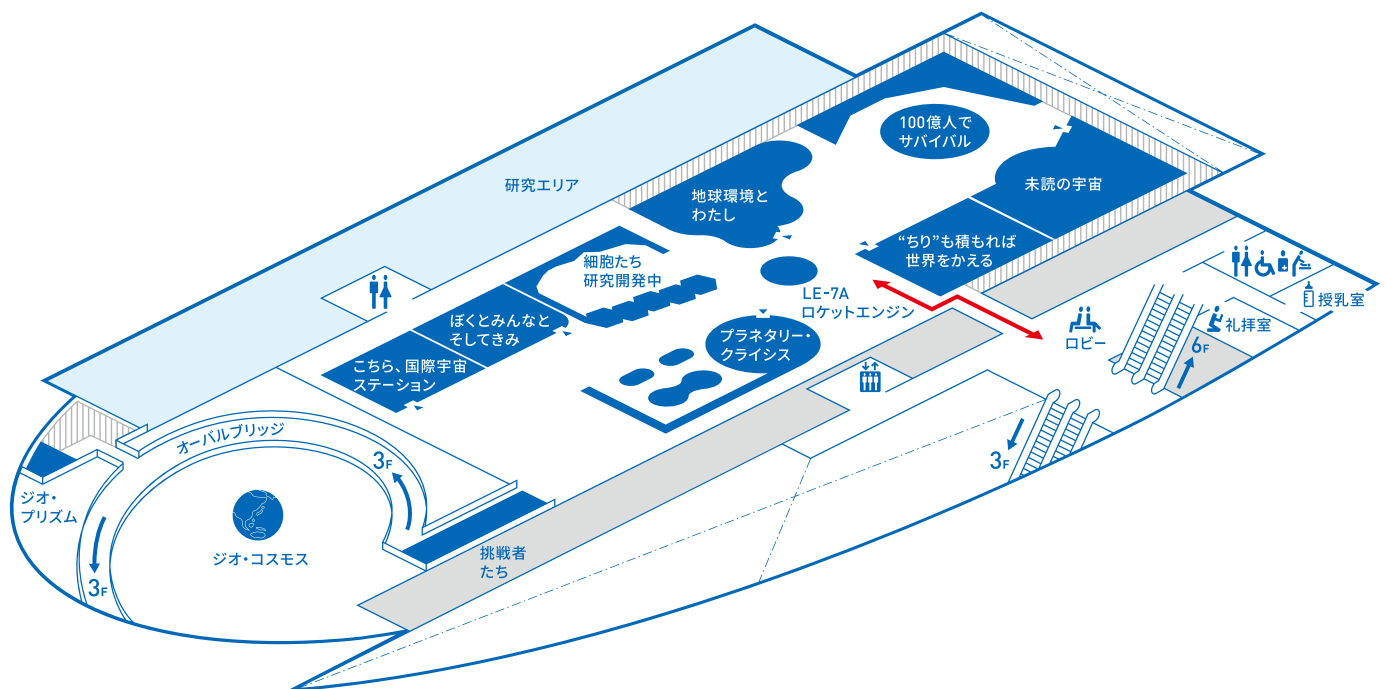
100億人でサバイバル



“ちり”も積もれば世界をかえる
—宇宙・地球・生命の探求



ぼくとみんなとそしてきみ
—未来をつくりだすから



5階 展示ゾーン：床面積合計 2,213.34㎡

常設展「未来をつくる」(3 階) 展示名称

展示	展示チャプター
量子コンピュータ・ディスコ	・1 エントランス： 量子コンピュータのうた ・2 ダンスフロア： 量子コンピュータ DJ ・3 ギャラリー： 量子コンピュータがわかるショートムービー 量子コンピュータをわかった気になれる 10 作品 ・4 ラウンジ： 量子コンピュータのつくり方 量子コンピュータを生んだ、計算と物理の再会ものがたり 量子コンピュータにコレできる？ ガチャ
計算機と自然、計算機の自然	・世界観エリア - 導入展示 - 計算機と自然、計算機の自然 ・理解エリア - 解像度の心得 - 「経験」と「法則」を繰り返す人類の物語 - 先人たちの計算浮世話
ナナイロクエスト ーロボットと生きる未来のものがたり	・ともだちロボットツアー ・ものづくりロボットツアー ・からだロボットツアー
ハロー！ロボット	・研究紹介エリア ・コミュニケーションロボットエリア
古いパーク	・STEP 1 老いてなんだろう？ ・STEP 2 老いを体験しよう！ ・STEP 3 自分らしい老いて？
零壹庵	

常設展「未来をつくる」(3 階)

これから先、私たちはどんな方法で豊かさを築いていけばいいのでしょうか？私たちが望む社会や暮らしのかたちを描きだし、その夢がどんなアイデアによって実現されるかを考えるゾーンです。70 億人を超える地球上で持続可能な社会をつくるためには、どんな科学技術を、どのように使うことが必要なのでしょう。未来の社会を予見させる空間で、私たちが豊かに生き続けるための知を探ります。



量子コンピュータ・ディスコ



ナナイロクエスト
ーロボットと生きる未来のものがたり



ハロー！ロボット



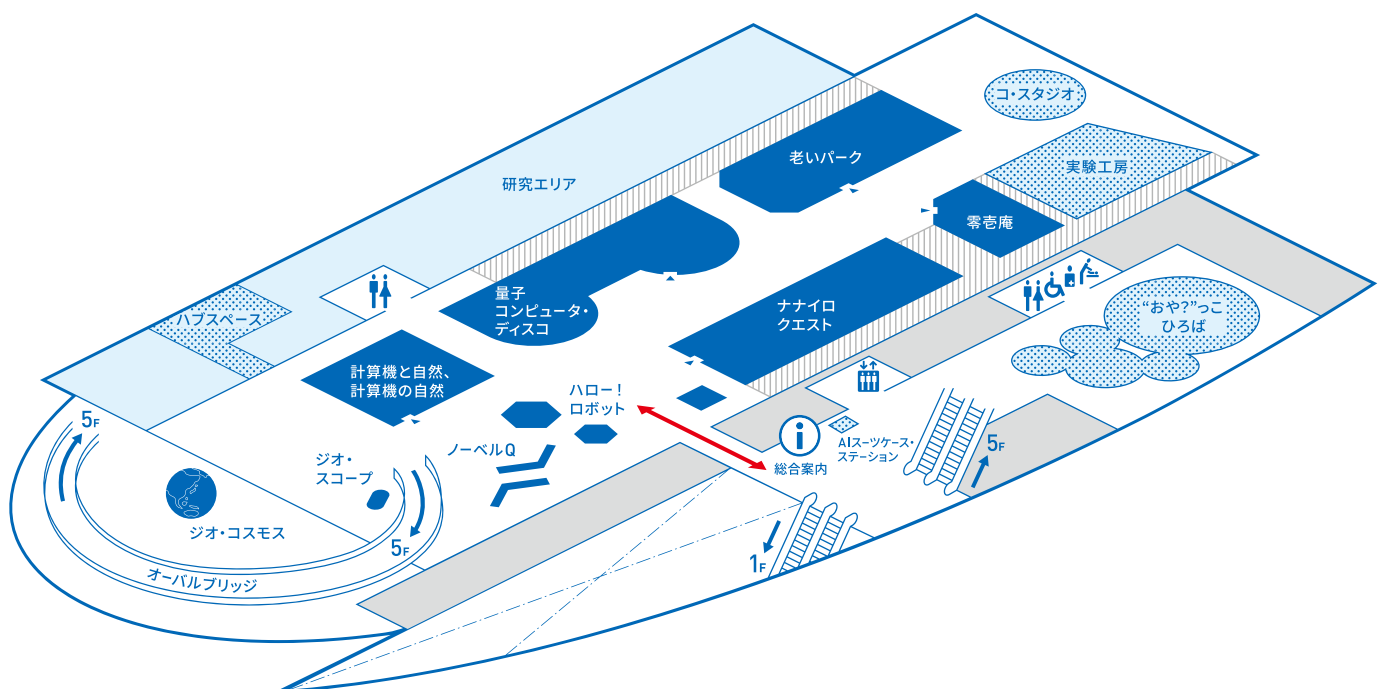
古いパーク



計算機と自然、計算機の自然



ノーベル Q
ーノーベル賞受賞者たちからの問い



3 階 展示ゾーン：床面積合計 2,874.80㎡

常設展「地球とつながる」(1、3、5 階)

私たちは地球について、どれほどのことを知っているのでしょうか？最先端の技術とデータを使って、地球上のあらゆる生命と環境と自分との‘つながり’を感じ、理解するのがこのゾーンです。シンボル展示のジオ・コスモスや、ジオ・スコープ、ジオ・プリズム、ジオ・パレットで地球に関する多様な科学情報を見ることができます。

地球の生態系のなかのさまざまな生命の‘つながり’や、地球46億年の歴史とともにくまれてきた私たち人間と地球との‘つながり’など、地球規模の大きなつながりのなかに人間の存在や自分自身を位置づけてみましょう。未来館の常設展示すべてを包括するゾーンです。

■ シンボル展示 ジオ・コスモス

1000 万画素を超える高解像度で、宇宙に輝く地球の姿を映し出す日本科学未来館のシンボル展示。最新の LED パネルへと変化したジオ・コスモスは、リアリティが高く、みずみずしい地球の姿を映し出します。HDR（ハイダイナミックレンジ）対応と高色域化により豊かな色彩表現や光の表現を可能としました。

- ・主要スペック
- サイズ：直径約 6m（地球の約 200 万分の 1）
- 重さ：約 13 t
- 内部構造：ジオデシック正八面体モデル
- 画素数：1000 万画素以上
- 発光デバイス：LED（96mm角パネル 10,362 枚）



コンテンツ例・90 日の地球

■ ジオ・スコープ

国内外の科学者や研究機関から集めたさまざまな地球観測データへ自由にアクセスできる展示です。タッチパネルによる簡単な操作で、地球スケールの情報を思いのままに探ることができます。5 台のうち1台には、科学データを音で表現した「耳で楽しむモード」を搭載しています。



■ ジオ・プリズム

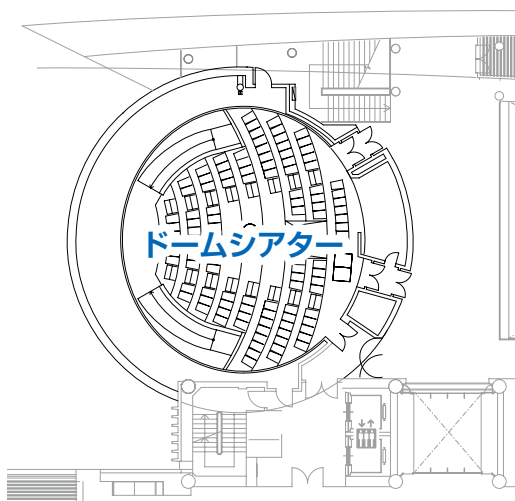
AR（拡張現実感）技術を用いて、ジオ・コスモスにデータやシミュレーションを重ねて表示できるシステムです。CG と複数のカメラからの映像をダイナミックに織りまぜたデータが、地球上に可視化されます。シンボルゾーンとオーバルブリッジに設置されたタッチスクリーン端末を使って、360 度方向から鑑賞することができます。



ドームシアター

6階にあるドームシアターは、半球状の映像シアターです。

全周を覆う広いスクリーンを活かした迫力の大画面映像や、日本初の全天周・超高精細 3D 映像を使用した立体視プラネタリウム作品など、さまざまな映像プログラムを上映しています。



外観



内観

ドーム直径：15.24 メートル

ドーム傾斜角：23.5 度

席数：121 席（全席リクライニング）

音響：7.1 チャンネルサラウンドシステム

■ 映像システム

・映像システム 1：全天周・超高精細立体視映像システム

高精細な映像を高輝度 RGB レーザー 4K プロジェクター 2 台で投影することで、空気感や気配までも感じられるような、明るく鮮やかな映像をドーム型スクリーンに映し出します。アクティブシャッター方式の 3D システムによる、自然で迫力のある全天周立体視映像を楽しめます。

・映像システム 2：プラネタリウム投影機“MEGASTAR-II cosmos”

約 1,000 万個の恒星を投影します。リアルで繊細な星空を活かして、立体視映像システムと連動したプログラムを上映しています。

■ 観覧方法

観覧には「常設展+ドームシアター」（大人 940 円、18 歳以下 310 円）のチケットが必要です。

■ 上映作品 [2024年4月現在]

『PLAY DOME 01
アニメーション・カーニバル』



『PLAY DOME 02
地上400kmのドキュメンタリー ISS』



『9次元からきた男』



©Miraikan

『バースデー
～宇宙とわたしをつなぐもの～』



©4D2U Project, NAOJ

アクティビティ

科学技術に関するさまざまな話題を伝えるトークや実演、ツアーのほか、参加者と一緒に考えながらテーマを深めるワークショップ、専門家と一般の人々が語り合うイベントなどのアクティビティを実施しています。



■ レギュラーアクティビティ

トークプログラム、ワークショップ、実験教室、展示ツアー、学校向けプログラムなどを定期的に行っています。

■ シーズンアクティビティ

最新の科学技術トピックや関心の高いテーマなどを取り上げてイベントなどを開催しています。

■ 研究者等と連携したアクティビティ

研究エリア入居プロジェクトをはじめ、研究者や有識者などを招いたトークや対話、参加型イベントなどを開催しています。

オンラインコンテンツ

未来館をもっと便利に、もっと楽しむための公式アプリや、研究機関から提供された科学データにアクセスできるオンライン展示を無料で提供しています。

■ アプリ

日本科学未来館公式アプリ「Miraikan App」

未来館のイベント情報や展示の解説のほか、当日の整理券の発券状況など来館時に知りたい情報にもアクセスできるアプリ。未来館のオンラインコンテンツへのリンクも集約しており、来館しなくても未来館のコンテンツを楽しめます。

2025 年公開／無料／公開元：App Store および Google Play



「日本科学未来館アシストアプリ」

主に視覚に障害のある方の展示体験をサポートする目的で開発したアプリ。常設展示ゾーン内の約 50 箇所に設置された AR マーカーを読み取ることで、各展示の解説や体験方法を音声でお知らせします。また、実験的なアプリとして、アシストアプリを補完する「アシストアプリプラス」もあります。人に聞こえない高さの音に埋め込んだ信号や、流れてくる音声そのものをアプリが聴きとって判断することで、タイミングに合わせた解説を音声で提供します。

2025 年公開／無料／公開元：App Store および Google Play



■ オンライン展示体験サイト「MIRAI-Bit」

2023 年に公開された3つの展示に関連するコンテンツの一部を体験することができます。

2024 年公開／無料／<https://mirai-bit.jst.go.jp>



過去に開催した主な特別展・特別企画 1

先端科学技術がわたしたちにもたらす変化や新しい世界像に焦点をあて、多くの外部組織と連携しながら、さまざまな表現手法やコミュニケーション手法を用いた特別展・特別企画を開催しています。



ロボット・ミーム展
2001/12/1～2002/2/11



サウンドバム プロジェクト展
2002/10/2～10/21



時間旅行展
2003/3/19～6/30



疾走するファイバー展
2004/6/30～8/31



「F.C.R.B. スタジアム
プロジェクト」展
2005/4/23～8/15



恋愛物語展
2005/4/23～8/15



サイエンス・トンネル
2005/9/16～11/17



サイエンス+フィクション展
2005/12/10～2006/2/27



脳！
2006/3/18～5/31



「マンモスからの警告」展
2006/7/1～9/3



65億人のサバイバル
2006/10/29～2007/2/5



サイエンスニュース！
アジア展
2007/6/2～9/2



地下展 UNDERGROUND
2007/9/22～2008/1/28



エイリアン展
2008/3/20～6/16



世界最大の翼竜展
2008/6/28～8/31



お化け屋敷で科学する！
2009/4/22～6/22



‘おいしく、食べる’の科学展
2009/11/21～2010/3/22



きみのみらい・みらいのきみ
2010/3/20～5/10



お化け屋敷で科学する！ 2
2010/3/10～5/31



ドラえものの科学みらい展
2010/6/12～9/27



テオ・ヤンセン展
2010/12/9～2011/2/14



メイキング・オブ・
東京スカイツリー®
2011/6/11～2011/10/2



ウメサオタダ才展
2011/12/21～2012/2/20



世界の終わりのものがたり
2012/3/10～2012/6/11



科学で体験するマンガ展
2012/7/7～2012/10/15

2025 年 4 月現在

過去に開催した主な特別展・特別企画 2

先端科学技術がわたしたちにもたらす変化や新しい世界像に焦点をあて、多くの外部組織と連携しながら、さまざまな表現手法やコミュニケーション手法を用いた特別展・特別企画を開催しています。



波瀾万丈! おかね道
2013/3/9 ~ 2013/6/24



サンダーバード博
2013/7/10 ~ 2013/9/23



THE 世界一展
2013/12/7 ~ 2014/5/6



トイレ? 行っトイレ!
2014/7/2 ~ 2014/10/5



チームラボ 踊る! アート展と、
学ぶ! 未来の遊園地
2014/11/29 ~ 2015/5/10



ポケモン研究所
2015/7/8 ~ 2015/10/12



GAME ON
2016/3/2 ~ 2016/5/30



The NINJA
-忍者ってナンジャ!?-
2016/7/2 ~ 2016/10/10



ディズニー・アート展
いのちを吹き込む魔法
2017/4/8 ~ 2017/9/24



MOVE 生きものになれる展
-動く図鑑の世界にとびこもう! -
2017/11/29 ~ 2018/4/8



名探偵コナン 科学捜査展
~真実への推理(アブダクション)~
2018/4/18 ~ 2018/7/8



デザインあ展 in TOKYO
2018/7/19 ~ 2018/10/18



「工事中!」
~立ち入り禁止! ?重機の現場~
2019/2/8 ~ 2019/5/19



マンモス展
-その『生命』は蘇るのか-
2019/6/7 ~ 2019/11/4



「震災と未来」展
-東日本大震災10年-
2021/3/6 ~ 2021/3/28



超人たちの人体
2021/7/17 ~ 2021/9/5



きみとロボット
ニンゲンッテ、ナンダ?
2022/3/18 ~ 2022/8/31



動画クリエイター展
2022/10/8 ~ 2023/4/2



NEO 月でくらす展
~宇宙開発は、月面移住の新时代へ!~
2023/4/28 ~ 2023/9/3



刀剣乱舞で学ぶ 日本刀と
未来展 -刀剣男士のひみつ-
2024/7/10 ~ 2024/10/14



パリ・ノートルダム大聖堂展
タブレットを手に巡る時空の旅
2024/11/6 ~ 2025/2/24



チ。ー地球の運動についてー
地球が動く 地動説を探求する
物語をアニメの世界観で没入体験!
2025/3/14 ~ 2025/6/1

2025 年4月現在

大型映像の配給

■ 大型映像の制作・配給

日本科学未来館では研究機関・映像制作会社など外部機関の協力を得て、オリジナルの大型映像作品を制作しており、国内外の多くの科学館等にて上映されています。

●「FURUSATO

「一宇宙からみた世界遺産」

(2010年/37分)

配給：株式会社TBSスパークル

©日本科学未来館/TBSビジョン



●「9次元からきた男」

(2016年/30分)

配給：株式会社五藤光学研究所
コニカミノルタプラネタリアム株式会社

©Miraikan



●「INHERIT

「～はやぶさ2・宙への夢と挑戦をのせて～」

(2022年/30分)

配給：ライトプレーン合同会社
コニカミノルタプラネタリアム株式会社

©Miraikan



大型映像の配給については、HPをご覧ください。

[ドーム映像の配給] <https://www.miraikan.jst.go.jp/resources/movie/>

科学コミュニケーター

科学技術とどう付き合い未来をどう築いていくのか、社会のさまざまな立場の人と対話をしながら考えていくのが科学コミュニケーターの役割です。展示場での対話や実演、展示やイベントの企画制作、情報の発信などの活動を通して、人々が未来をつくる架け橋になることを目指しています。



■ 展示場での対話や実演

展示場では知識を伝えるだけでなく、来館者と一緒に考えながら話を深めていきます。多様な人々のさまざまな意見を聞き、対話することで、課題解決やイノベーションにつながる気づきを生み出していきます。

■ 展示やイベントの企画制作

先端科学技術の研究成果を展示のかたちに仕立てることで、誰でも楽しみながら体験できるようにしています。また、専門家と一般の人々が語り合うイベントを実施したり、一般の人々が研究開発に参加できる場をつくったりしています。

■ 情報の発信、社会との連携

国内外のあらゆる立場の人々と連携しながら、対話・協働の場を生み出し、未来の社会づくりに向けた科学コミュニケーション活動を展開しています。また、インターネットや新聞、雑誌、ブログの記事執筆などを通じた科学情報の発信にも取り組んでいます。

ボランティア

展示解説、実験教室やイベントの運営支援など、ボランティアがそれぞれの持つ専門性をいかして活躍しています。

ボランティアには3つの活動形態があり、多様な活動を展開しています。

活動形態	レギュラーボランティア	サポートボランティア	期間限定ボランティア
活動頻度	年間12回以上かつ年間活動時間が72時間以上	年間12回未満または年間活動時間が72時間未満	繁忙期等、未来館が別途定めた期間での活動
活動内容	展示解説、来館者対応等	レギュラーボランティアに準じる	レギュラーボランティアに準じる
条件	高校生以上であり、未来館での活動に意欲と熱意をもって積極的に活動できる方	レギュラーボランティアに準じる	レギュラーボランティアに準じる

研究エリア

日本科学未来館の3階から5階までの展示ゾーン裏側には、研究エリアが併設されています。ここには、先端科学技術の研究を行う複数のプロジェクトが常駐しており、未来館をフィールドとした実証実験や交流イベント等、来館者とともに未来をつくる研究開発を行っています。

現在行われている研究プロジェクト	研究代表者（所属）
●「アバター共生社会」プロジェクト 「サイバネティック・アバター（CA）」を用いて、人間の身体的・認知・知覚能力を拡張し、誰もが認め合い、繋がり、共に生きる社会の実現を目指して研究開発に取り組んでいます。	石黒 浩（大阪大学大学院 基礎工学研究科）
●「xDiversity（クロス・ダイバーシティ）」プロジェクト AI技術による個人最適化技術と空間視聴触覚技術の統合を通して、人機一体による身体的・能力的困難の超克を目指します。	落合 陽一（筑波大学 デジタルネイチャー開発研究センター）
●「運動能力開発・拡張」プロジェクト 人間の身体運動メカニズムを解明し、潜在的な身体能力を開発する科学の構築と具体的な方法論の提案を目指します。	川上 泰雄（早稲田大学スポーツ科学学術院）
●「こどもからみる不思議世界探求」プロジェクト 実験を通して赤ちゃんや子どもが育つ環境を考え直し、赤ちゃんから大人へ、未来社会に適応する多様な個々の発達を支える環境のありかたを捉えていきます。	山口 真美（中央大学 文学部）
●「身体メディア」プロジェクト Cyber Living Lab 人々が自身の身体を通して得る様々な経験を、記録・共有・拡張・創造する未来のメディアテクノロジーを創ります。	南澤 孝太（慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科）
●「サステナブルバイオテクノロジー」プロジェクト 食品廃棄物などからクリーンエネルギーの水素を生産するバイオプロセスの研究開発を行いながら、サステナブルバイオテクノロジーを広く社会に紹介していきます。	渡邊 一哉（東京薬科大学 生命科学部 生命エネルギー工学研究室）
●「知的やわらかものづくり革命」プロジェクト 材料と加工がデジタル製造に直結するコンビニエンス・ファクトリー概念の実現に向け、「マテリアル&プロセスイノベーション」研究を進めています。	古川 英光（山形大学 ソフト&ウェットマター工学研究室）
●「ヒューマン・オルガノイド」プロジェクト 人工多能性幹細胞（iPS細胞）などのヒトの細胞から造られた臓器のミニチュア版「オルガノイド」をツールとして、新薬開発や臓器移植への応用を実現するための基礎となる技術開発を進めています。	武部 貴則（大阪大学大学院 医学系研究科）

研究プロジェクトの詳細については、HPをご覧ください。

2025年4月現在

【研究プロジェクトについて】 <https://www.miraikan.jst.go.jp/research/facilities/>

実証実験公募プログラム

これから社会実装を目指す先進的な技術やサービスに関する実証実験を、研究者や開発者から公募するプログラムです。未来館をフィールドに、来館者が参加・協力するかたちで実験を行うことで、多様な視点が研究開発に生かされます。

2025年度実施 第1回公募 採択実証実験	実施代表者（所属）
● 生成 AI を用いたユニバーサルガイドアプリによる、あらゆる人に最適な展示博覧体験サービスの実証 北村 幸弘（NHK グローバルメディアサービス） 生成 AI を活用し、年齢や障害、言語の違いに合わせて多言語テキスト、音声、画像など、ユーザーに最適化した情報提供を行うユニバーサルガイドアプリを用い、展示体験における情報保障サービスを実証します。	
● 多面連動デジタルサイネージと空間的・没入的映像提示による人流制御手法の検証 三河 祐梨（NTT コミュニケーション科学基礎研究所） 都市空間を想定した多面連動デジタルサイネージ空間における人流制御を促す映像デザインの効果検証を実施。体験者の行動データから、混雑緩和や避難誘導等を目的とした不特定多数の人流制御の可能性を検証します。	
● 生成 AI 技術や画像認識を用いたロボットによる新しい対人サービスの実証 竹原 久雄（JAL デジタル） 自律走行ロボットを用いた対人案内サービスの実証。AI による自然な会話とサービス提供、画像認識技術の有効性を評価し、ロボットの施設利用者への利便性や快適性の向上、新規労働力としての可能性を検証します。	
● 子ども型見守りロボット「Hanamoflor」の子どもを対象とした活動の価値検証と社会受容性検証 袖山 慶直（ソニーグループ） 子ども型見守りロボット「Hanamoflor（ハナモフロル）」を活用し、主に未就学児を対象とした保育・教育用途のユースケース実証を実施。体験によるユーザー価値評価のほか、ロボット共生社会の社会受容性検証を行います。	
● AI クローン技術を活用した人間と AI の共創的サイエンスコミュニケーションモデルの構築と検証 笠原 俊一（ソニーコンピュータサイエンス研究所） 科学コミュニケーターの AI クローンを開発し、身体や時間の制約を超えた新たな対話手法を実証。AI クローンの対話経験を本人にフィードバックすることで、人間と AI の共創型コミュニケーションモデルを構築します。	
● スマートフォン用ソフトウェア＜空間楽器＞による多様な人々と社会を結ぶアート手法の検証 古川 聖（東京藝術大学） 音声同期ソフトウェア＜空間楽器＞を用い、不特定多数の多様な人々が、自分のスマホから QR コードを読み込んで参加する音楽セッションを実証。「望まない孤独や社会的孤立」を乗り越えるためのテクノロジーとアートの活用可能性を検証します。	
● 遠隔操作とロボット基盤モデルを組み合わせたサービスロボティクスのスケール化に関する実証 松嶋 達也（東京大学／AI ロボット協会） ロボットの遠隔操作によるサービス提供と自動化技術の実証実験を行います。参加者の体験・遠隔操作データは、ロボット基盤モデルの学習データとして活用され、ユーザビリティ向上や自動化の研究開発につながります。	

2025年4月現在

研究開発・社会実装

未来館が主体となったユニークな研究開発や、地域自治体と連携した共創拠点プロジェクトを、企業や大学など様々なパートナーが関わるかたちでオープンに推進しています。

■ 未来館アクセシビリティラボ

未来館アクセシビリティラボは、先進的な AI やロボティクスの技術をもった企業や大学と協業して、視覚障害者が街を自由に移動し、身の回りの情報を認識し、自立して生活するための技術を生み出すコンソーシアム型研究室です。障害物を避けつつ目的地まで安全にユーザーを誘導する自律型ナビゲーションロボット「AI スーツケース」や、手の動きと連動して自動的に音声で解説する「触れる立体展示」などの研究開発を行っています。

こうした技術を、未来館をフィールドとして来館者等に体験していただき、ともに可能性と課題を考えることで、近未来の社会実装を促進します。

参加機関：日本アイ・ピー・エム株式会社 早稲田大学 理工学術院 慶應義塾先端科学技術研究センター



AI スーツケース



触って構造が理解できる未来館の3D 模型

■ トーキョーミライパーク

東京都と日本科学未来館が連携し、イノベーションの創出や先端技術の社会実装を地域社会とともに推進し、未来の東京を共創する拠点「Tokyo Mirai Park (トーキョーミライパーク)」を設置、運営しています。

3 階の研究エリアに設置した「Lab」では、先端技術やアイデアを持つ企業や研究機関等が集い、社会実装に向けた研究開発やプロトタイプングを実施。1 階の「Park」では、そうした最先端の技術やサービスを誰もが遊ぶように体験でき、体験者の声は開発者や行政に届けられます。このように研究開発と市民をつなぐことで未来の東京をみんなで考え、つくり、実現していくことを目指しています。

連携機関：東京都



トーキョーミライパーク

利用案内 1

■ 開館時間

10:00 ～ 17:00 (入館券の販売は 16:30 まで)

■ 休館日

火曜日 (火曜が祝日の場合は開館)、年末年始 (12 月 28 日～1 月 1 日)

※施設保守のため臨時で休館日を設ける場合があります

※春・夏・冬休み期間等は火曜日も開館する場合があります

■ 入館料

常設展、ドームシアター、特別展を除くご利用にあたっては、無料で入館が可能です。

●常設展

大人 630 円／18 歳以下 210 円／未就学児 (6 歳以下) 無料

団体 (8 名以上) 大人 500 円／18 歳以下 160 円

※ 土曜日は 18 歳以下無料

※ 障害者手帳所持者は本人および付き添いの方お一人まで無料 (障害者手帳アプリ「ミライロ ID」も可)

※ 特別展は別料金

●常設展+ドームシアター

大人 940 円／18 歳以下 310 円／未就学児 (6 歳以下) 100 円

※ ドームシアターを鑑賞する方は、常設展もご覧いただけます。

※ 土曜日は 18 歳以下 100 円です。

※ 1 日に 2 回以上ドームシアターを鑑賞する場合は、1 上映につき大人 310 円、

18 歳以下・未就学児 100 円でご覧いただけます。

※ 障害者手帳所持者は本人および付き添いの方お一人まで無料 (障害者手帳アプリ「ミライロ ID」も可)

●無料開放日

以下の日付は常設展のみ無料になります。

「科学技術週間」期間の金曜日、土曜日 (2025 年は 4 月 18 日 (金)、19 日 (土))

「こどもの日」は 18 歳以下の方 (2025 年 5 月 5 日 (月))

「敬老の日」は満 65 歳以上の方 (2025 年は 9 月 15 日 (月))

「教育・文化週間」期間の土曜日 (2025 年は 11 月 1 日 (土))

利用案内 2

■ 館内設備

● 駐車場

営業時間：7:00 ～ 23:00

料金：1 時間 440 円、当日1日最大 1,650 円

台数：車 167 台（身体障害者用 4 台含む）

※ 車両制限：全長 5m、全幅 1.9m、全高 2.1m、重量 2.5t

※ 大型バス 20 台（来館中 3,150 円、事前予約不要）

● 電気自動車（EV） 普通充電サービス

・ 普通充電器

利用時間：7:00 ～ 23:00（地下駐車場利用時間に準ずる）

場所：地下駐車場

料金：無料 ※別途、駐車料金あり

台数：18 台

仕様：6kw200V

・ 電気自動車（EV） 急速充電サービス

利用時間：1 回のご利用にあたり最長 30 分まで

場所：地上駐車場

料金：有料

台数：2 台

規格：充電方式 CHAdeMO Rev.2.0.1、入力電圧 AC200V、定格出力 50kw

● 駐輪場

自転車、バイク 各 10 台程度

● シェアリングサービス

江東区コミュニティサイクル「docomo bike share service」 専用ポート

電動キックボード「Luup」 専用ポート

● 来館者用トイレ

1 階 2 カ所 / 3 階 2 カ所 / 5 階 2 カ所 / 6 階 1 カ所 / 7 階 1 カ所

※ 各階に多目的トイレがあり、1,3,5 階にはオストメイト対応トイレがあります

※ 1,7 階のトイレには、おむつ替え台（大人サイズ）があります

● ベビーカー、授乳室

ベビーカーの貸し出しをしています

5 階に授乳室があります

● 救護室

看護師が常駐しています

● ロッカー

1 階 コインロッカー 128 台（100 円：使用後に返金されます）

● 飲食場所

7 階展望ラウンジにて飲食が可能です

7 階ドリンクコーナー（お食事はできません）

5 階ロビー

1 階多目的ルーム隣と、7 階ドリンクコーナーに、冷水器があります

1 階多目的ルームは、団体のお客様の昼食場所として使用できます（平日のみ。要事前予約）

利用案内 3

■ バリアフリー情報

●車いすをご利用の方向け

車いす・電動車いすの貸出あり／車いす対応トイレあり／ドームシアター内車いす留め置きスペースあり／
車いす利用者専用駐車スペースあり

●聴覚に不自由がある方向け

筆談具あり／常設展映像コンテンツは字幕あり／ドームシアターは字幕上映や字幕メガネ、シナリオ貸出あり

●視覚に不自由がある方向け

ドームシアターでは音声ガイドにて副音声を提供

●特別支援学校・学級向け

展示見学サポートタブレット「ウェルカム！ナビ」貸出あり（軽～中度の知的障害の方向け）

●小さなお子様連れの方向け

授乳室あり（男性も利用可）／おむつ替え台あり／ベビーカーの貸出あり

●海外からのお客様向け

常設展内は日英表記（パネル、映像）／フロアガイドは日英中韓表記／ドームシアターは英語の音声ガイドあり

●トイレ

オストメイト対応トイレあり／おむつ替え台（大人サイズ）あり

●その他

盲導犬、介助犬、聴導犬と一緒にご入館いただけます／救護室に看護師 1 名が常駐／AED（自動体外式除細動器）あり
／礼拝室（個室）あり

※ バリアフリー情報について、詳しくは HP をご覧ください

<https://www.miraikan.jst.go.jp/visit/accessibility/>



Miraikan ID

Miraikan ID は未来館が提供するサービスを利用する際に必要なアカウントです。

■ 登録料

無料

■ 登録者特典

メールマガジン「Miraikan News」の受信	未来館からのお知らせや最新のイベント情報を毎月第2・第4金曜日に配信します	
年間パスポートの購入	1年間、何度でも常設展に入場できるフリーパスです	
	大人(満19歳以上)	18歳以下(満6歳以上)
	1,250円(継続1,050円)	410円(継続310円)
未来館イベントの参加	会員限定イベントへの参加申し込みができます	

ショップ・展望ラウンジ

日本科学未来館には、1階にミュージアムショップ、7階に展望ラウンジがあります。

■ ミュージアムショップ（1階）



AI 無人決済やデジタルヒューマンサイネージによる商品紹介などの購買体験ができます。オリジナルグッズのほか、実験キットや科学に関するグッズ、書籍が揃っています。一部商品はオンラインショップから購入可能

営業時間：10:00 ～ 17:00

休業日：火曜日 ※休館日に準じる

オンラインショップ：<https://www.miraikanmuseumshop.jp/>

店舗経営：株式会社ノムラメディアス

■ 展望ラウンジ／レストラン（7階）



お台場周辺から東京タワーまで見渡せる休憩スペース。セルフサービス形式のレストランも併設。

開放日時／営業時間：10:00 ～ 17:00

（レストラン ラストオーダー 16:30 まで）

休業日：火曜日 ※休館日に準じる

席数：展望ラウンジ 255 席（屋外デッキ 24 席）

店舗経営：株式会社フードワークス

設計と特徴

科学技術と人、人と人との交流の場をつくる、という建築コンセプトのもとに設計され、デザインや技術面においてさまざまな工夫がなされています。



開かれた施設を象徴するガラスの外装
直射日光の影響が少ない東～北面は透明強化ガラス(写真正面)、夕陽が当たる西面は半透明で断熱性の高いガラスが主に用いられ、透明感ある外観を作り出しています。



ダイナミックなスペース
エントランス空間やシンボルゾーンは自然光が溢れる吹き抜けの空間。エントランスから6階まで、各階はエスカレーターと連続階段で自然に繋がっています。



フレキシブルな展示空間
展示空間は、柱間隔が30mスパンの壮大なスペースです。正面東側は1階から6階までの吹き抜けで、3階から5階までをスロープでつないでいます。



スルーホール
建物を縦に貫くように挿入された10本の塔。屋上の太陽光追尾装置から光を内部に取り入れる「光の塔」、新鮮な空气の供給と排気を行う「風の塔」があります。

建築・設備概要

■ 建築概要

施設名	日本科学未来館
所在地	〒135-0064 東京都江東区青海2丁目3番6号
設計監理	日建設計・久米設計 設計共同企業体
設計協力	ランドスケープ: ジョージ・ハーグレイブス(基本設計のみ) / サイン: 廣村デザイン事務所 / 照明: LPA
施工期間	1999年12月～2001年3月
地域地区	防火地域、準工業地域
建ぺい率	46.51%(基準60%)
容積率	177.71%(基準200%)
道路幅員	西40m、北20m
面積	敷地面積: 19,636.65㎡ 建築面積: 9,133.59㎡ 延床面積: 40,744.03㎡[地下駐車場含む]
駐車場	面積: 5,737.84㎡ / 駐車台数: 167台(身障者用4台含む)
高さ	軒高: 42m / 最高高: 45m / 基準階高: 4.5m / 天井高: 8.0m(基準展示室)、3.0m(研究室) エントランス吹抜高: 25m(一部39m) / 展示スペース基準天井高: 8m(梁下部6m)
寸法	主なスパン: 30m×6m
階数	地下: 2階 / 地上: 8階 / 塔屋: 1階
構造	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造
杭・基礎	回転圧入式鋼管杭・無排土工法

■ 設備概要

空調設備	空調方式: 単一ダクト方式、単一ダクト+FCU方式、空冷パッケージ方式 熱源: 地域冷暖房
衛生設備	給水: 圧力給水方式(上水・中水) 給湯: 中央方式(地域冷暖房)、個別方式併用 排水: 一般汚水・雑排水系統、実験排水系統
電気設備	受電方式: 22kV 50Hz 3回線 SNW方式 設備容量: 2000kVA×3台 契約電力: 1700kw 予備電源: ガスタービン発電機 6.6kV 50Hz 1250kVA
防災設備	直流電源設備、自火報・防排煙・ガス漏れ警報設備、非常放送設備、避雷設備、緊急救助用スペース照明設備 / 消火スプリンクラー設備(閉鎖型・放水型・予作動式)、泡消火設備、窒素ガス消火設備 / 排煙: 自然排煙、機械排煙
その他	ゴミ処理設備、地域冷暖房受け入れ設備
昇降機	乗用エレベータ(展示ゾーン) 24人乗 2台 乗用エレベータ(バックヤード・非常用) 17人乗 2台 人荷用エレベータ(バックヤード・非常用) 17人乗 2台 荷物用エレベータ(バックヤード) 積載最大荷重 6000kg 1台 乗用エレベータ(駐車場) 11人乗 1台 エスカレータ(導入ゾーン) 幅1200mm 10台
荷捌室	搬入口 有効開口 W5,250mm×H4,000mm および W3,750mm×H4,000mm
室内温度・湿度	温度: 17℃～28℃、湿度: 40%～70%
警備体制	テレビモニタ: 全館に設置(駐車場等含む) 監視場所: 1階防災センター 警備員: 24時間常駐

アクセス

日本科学未来館への交通手段には新交通ゆりかもめ、東京臨海高速鉄道りんかい線、路線バス、車などいろいろな方法があります。

■電車

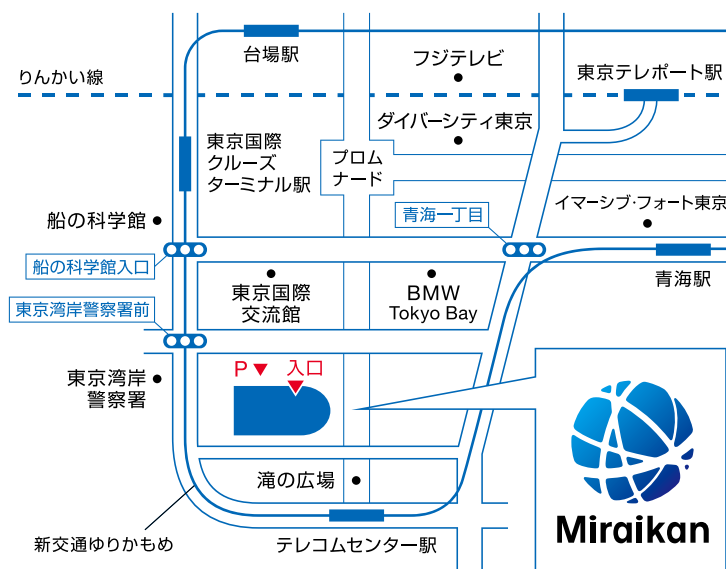
- ・新交通ゆりかもめ(新橋駅～豊洲駅)
「東京国際クルーズターミナル駅」下車、徒歩約5分
「テレコムセンター駅」下車、徒歩約4分
- ・東京臨海高速鉄道りんかい線(新木場駅～大崎駅)
「東京テレポート駅」下車、徒歩約15分

■路線バス

- ・都営バス(「日本科学未来館前」で下車)
海01「門前仲町駅～日本科学未来館前」
直行03(土日祝のみ運行)「錦糸町駅→日本科学未来館(片道のみ)」
急行05(土日祝のみ運行)「錦糸町駅～日本科学未来館」
急行06(土日祝のみ運行)「森下駅～日本科学未来館」

■ 車

- 〈首都高速から〉
 - ・都心方面からは、首都高速11号台場線でレインボーブリッジを渡り、「台場出口」で降りて約5分
 - ・羽田・横浜方面からは、首都高速湾岸線で東京港トンネルを通り抜け、「臨海副都心出口」で降りて約4分
 - ・千葉方面からは、首都高速湾岸線、「有明出口」で降りて約7分
- 〈一般道から〉
 - ・都心方面からは、レインボーブリッジ下層の一般道を渡って、レインボーブリッジ入口交差点より約4分



日本科学未来館 〒135-0064 東京都江東区青海2丁目3番6号 Tel.03-3570-9151 (代)